

イーロン・マスクの妙手：「権力者」にとってそれは何を意味するか

マスクのツイッター買収

<https://www.infowars.com/posts/elon-musks-twitter-gambit-and-what-it-means-to-the-clique-in-power/>

Michael Rectenward | Mises.org

April 27, 2022

⇒最近の Elon Musk のツイッター乗っ取りは、ご存知の容疑者の面々を、恐慌におとし入れた。

⇒進歩派の主張とは反対に、ツイッターは、「民主主義のタウンホール」であったことはなく、それは「左翼的目覚め、政治的忠誠、公的な国家義務や物語への従順さ」を強制するものであった。

イーロン・マスクが、ツイッターを買収し、それを私的な会社に転換しようとする野心は、これまで明かに成功している。

今、現実の行動が始まる。マスクの買収行為は、ビッグメディア・デジタル複合体を、これまでに例のなかった、望まない競争にさらすことになり、情報と意見の、ほぼ完全なコントロールを、自由のもとに開放することになる。ツイッターはこれまで、競争者や参加者を、デジタルの世界から、「進歩的」な基準によって締め出し、情報の集合体の最も肝要の部分、それを自身が構成してきた。そこには、左翼的目覚め (wokeness)、政治的忠誠、それに公的な国家義務や物語が含まれている。

受容可能な表現を調停する者たちの、ツイッター乗っ取りへの反応は、迅速でもあり、ヒステリックでもあった。NY タイムズ、米自由人権協会 (ACLU)、体制派教授連盟 (Media Matters for America)、その他の「専門家」は、言論の自由に対抗して防衛戦術を強固にすすために、急ぎ馳せ参じた。

<https://www.nytimes.com/2022/04/25/opinion/editorials/twitter-elon-musk.html>

<https://www.mediamatters.org/twitter/if-elon-musk-buys-twitter-donald-trump-and-other-extremists-could-be-re-platformed-within>

<https://sfbayca.com/2022/04/22/professor-says-elon-musk-bid-for-twitter-poses-threat-to-democracy/>

「アメリカはメディアが重要」 総裁の Angelo Carusone は、 のマスク氏へのツイッター売却について、こう表現した：――

「これは、誤報やデマ (disinformation) とこれを売り捌く者たちにとっての勝利だ。マスクは、毒物とハラスメントの波を開放し、ツイッターの契約者の質の向上と、その発表の場をユーザーにとってより安全にする努力を、台無しにするだろう…。

この取引の持つ可能性は、ツイッターの将来より大きなものだといってよい。いかなる条件もなくイーロン・マスクに売却するということは、憎しみとウソの水門を開放することによって、情報のエコシステム全体を汚染するだろう。ツイッターの理事会は、今、取引の行われる前に、このことを考慮に入れる必要がある。」

カルソーネが、安全な空間を特別に強調しているにもかかわらず、1 つのことにに関して彼は正しい。この取引はツイッターの将来以上のものが関わってくる。こんなことはすでに分かっていたことだが、ツイッター理事会が、より早い時期に、マスクの会社獲得を、ある毒薬によって台無しにしようとしたことは、ビッグ・テックのカルテル・メンバーの本性を、よく表している。彼らは営利的な、自由市場の競争者として活動したのではなかった。それは、彼らが養成し保持してきた、注意深く管理された、独占情報バブルを、自らの構成要素とすることであった。それは、その内部で競争する必要がなかった。

言論の自由を擁護するマスクの契約は、体制派の門番たちの、荒れ狂った行動を引き起こし、彼らは皮肉にも、言論の自由を「民主主義への脅威」と表現した。ツイッターの国家機能を、カリフォルニア州立大イーストベイ校教授 (コミュニケーションと歴史) Norlan Higdon は、マスクの権利獲得は、「民主主義をますます、それが意図されたものでなくするだろう」と言った。民主主義はここでは、公的な場での平等の代表権という意味でなく、特定の「民主主義」イデオロギーの予定された支配という意味である。このイデオロギーは、「多様性、平等、および包含」の命令として定義され、受容可能な、保護されたアイデンティティと政治、という観点をもっている。

<https://sfbayca.com/2022/04/22/professor-says-elon-musk-bid-for-twitter-poses-threat-to-democracy/>

この人権グループは、マスクの言論の自由との契約は、団結した特定の集団と考えられる人々を、危険に陥れる可能性があるとして抗議し、彼らは、もしツイッターの拘束するアルゴリズムが誇張されるならば、他者の言論の自由によって傷つくことになる、と行った。デ

デジタル権利の研究者で、人権団体の擁護者 Deborah Brown は、「誰がツイッターを所有しようとして、その会社は、この言論の場に依存する世界中の人々の権利を尊重する、人権責任をもっている。どんなことでも、その方針、特徴、またアルゴリズムを変えることは、不釣り合いに大きな、時には破壊的な結果をもたらすことがある」と言った。

<https://www.reuters.com/technology/human-rights-groups-raise-hate-speech-concerns-after-musks-takeover-twitter-2022-04-25/>

言論はそれ自体で他者を「傷つけ」うるという主張は、今では、我慢ならないと考えられる人々の言論を、黙らせるための、特別の全体主義的な人々の、典型的な口実になっている。また一方で、NYタイムズは、フィナンシャル・タイムズと共に、無慈悲にマスクを誹謗し、この自動車の大物についてのタイムリーな暴露記事を書いた。そして巷の噂によれば、左の進歩派（woke）広告主たちは、ツイッターの全面ボイコットを協力して企てているという。

<https://www.nytimes.com/2022/04/25/opinion/editorials/twitter-elon-musk.html>

<https://www.hollywoodreporter.com/tv/tv-news/elon-musk-crash-course-new-york-times-fx-doc-1235134847/>

しかし、言うことを聞かぬ意見を抑えたり、変節の資本主義者にもなり得るマスク氏のような人を、訓練すること以外にも、もっと重要な問題がそこには見えている。ツイッターのようなビッグ・デジタル会社が、今、かつては政府が担当していた、監視や統制の機能を、引き受けてしまった。これらの機能が、ツイッター、フェイスブック、グーグル、ユーチューブ、といった企業資産に預けられることになれば、それは国家の権力と浸入を強化させるだろう。これらの政府機能には、政策の分野そのものの形成が含まれる。1

https://mises.org/wire/elon-musks-twitter-gambit-and-what-it-means-clique-power#footnote1_8hjyk0o

ツイッターはこれまで、一つの政治-国家装置——プロパガンダ、検閲、国家のための（誤）情報機関——として働いてきた。これはヘンリー・ハズリットが「権力集団」と定義する国家だった。これらの大きな資産の一つが、「悪い者」の手に落ちることを許すならば、これら諸機能は危険にさらされ、この体制は意見の違いを押しつぶし、民衆を支配しようとしているという、新しい疑惑を創り出すことになる。

<https://mises.org/library/road-totalitarianism>

[訳者 Greatchain 注]

イーロン・マスク氏による驚くべき決断は、社会メディアの革命をもたらすものと言えるだろう。これがどの程度、信用できるのかわからなかったので、我々は態度を控えていたが、信用してもよいらしいことがわかってきた。今まで、隠語などを使いながら、また削除や、利用禁止命令に遭いながら発表していた意見が、自由に言えるようになったことは、間違いなく「革命」である。我々の言論の自由は、基本的に奪われ、我々は騙され、ニセモノを掴まされてきた。そして我々には、それ自体がニュースであった。

しかし、ここに言われているように、この革命が一気に完成することは望めないであろう。旧来の「体制」による妨害や混乱が起こることは間違いなく、我々自身の間でも事態が把握できず、無責任な言説が現れるかもしれない。自由には責任が伴う。そこにこそ言論の自由の意味がある。私は、私自身に対して、他者との関係に対して、管理責任を負わねばならない。「信なくば立たず」という言葉が、今、やっと輝き出した。これまでずっと、「信」とは全く逆のものが働いていた。「信」とは、人々が宇宙に対して、また相互に共有する「魂」だと言ってよいだろう。これまで「レトリック」が支配していた。レトリックといえば響きはよいが、実のところは騙し合いであり、最近では騙し合いですらなく、殺意丸見えの戦略になってきた。我々はこういうものに、もはや我慢することができなくなった。この時期に、イーロン・マスクという人が現れたのは、自然の要求だったとも言えるだろう。この欺瞞と不信と、見え見えの犯罪の時代が、一刻も早く終わることを願いたいものである。